

おおさかグローバル奨学金留学報

2014年9月17日

学 校 名		奨学金 交付年度		平成 ²⁵ 26 年度
氏 名				
留 学 期 間	平成	26年	3月	29日 ~ 27年 1月28日
留 学 先	国 名	アメリカ	学校名	Edmonds Community College
専攻	英語科			
<p>留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。</p>				
<p>10ヶ月のシアトル留学が、終わりました。この長いようで短い期間、日本を離れて過ごし、たくさんの事を学びました。私にとって、全く違う文化の中で生活することは時に楽しくあり、時に厳しい時間となりました。</p> <p>留学生活6ヶ月目を過ぎたあたりから、アメリカでの生活も慣れ、英語でコミュニケーションを取ることに抵抗がなくなりました。ホストファミリーが話している内容もだいたい分かるようになりましたが、言いたいことを英語で表現出来ず、このままで本当に英語が話せるようになるのかという焦りとモヤモヤとする気持ちで過ごす時間も増えました。それまで、TOEICを中心に勉強をしていたので、ちゃんと英会話で使う言葉を勉強しないといけないと思い、そこからアメリカの映画やドラマを観て使えそうなフレーズはすぐに口に出して練習をしました。また、ホストファミリーとも、毎日最低1時間は会話をする時間を作りました。アメリカにいる間は英語力が伸びたという実感はありませんでしたが、留学が終わってみると、ホストファミリーや海外の友人と何も考え</p>				

ずにコミュニケーションを取れるようになったのは、成長した証だと思います。

アメリカは、国民行事がたくさんあり、アメリカでしか経験できないことをたくさん体験しました。ハロウィンでは、海賊の仮装をし友人とダウンタウンを歩いたり、仮装パーティーに参加しました。また、パンプキン農場にも、フィールドワークで行き、大きいパンプキンがゴロゴロ転がっているのを初めて間近でみました。サンクスギビングデイでは、ホストファミリーと七面鳥の丸焼きをディナーで頂き、クリスマスには、ツリーの飾り付けをしたり、豪華なディナーの後、ホストファミリー全員からプレゼントをもらいました。本当に忘れられない思い出がたくさんあり、どれも貴重な経験となりました。

私にとって、アメリカでの生活で1番大変だったのは、食生活です。アメリカは、移民大国なので各家庭で料理の種類は違い、ベジタリアンだったり、毎日カレーのところもあり、本当に様々です。私のホストファミリーは、アメリカ人でしたので、ディナーはだいたい、パスタ、ステーキまたはグリルされたチキン、ハンバーグとオーブンで焼き上げた野菜(玉ねぎ、パプリカ、芽キャベツなど)のローテーションでした。これが、思った以上に大変でした。というのも、野菜をあまり取らないので、よく貧血気味になったからです。アメリカに住んでいる以上、食生活もアメリカに慣れなければいけません。しかし最後まで慣れることができず、自分でキャベツなどの野菜を買って、なんとかやってみました。また、外食も

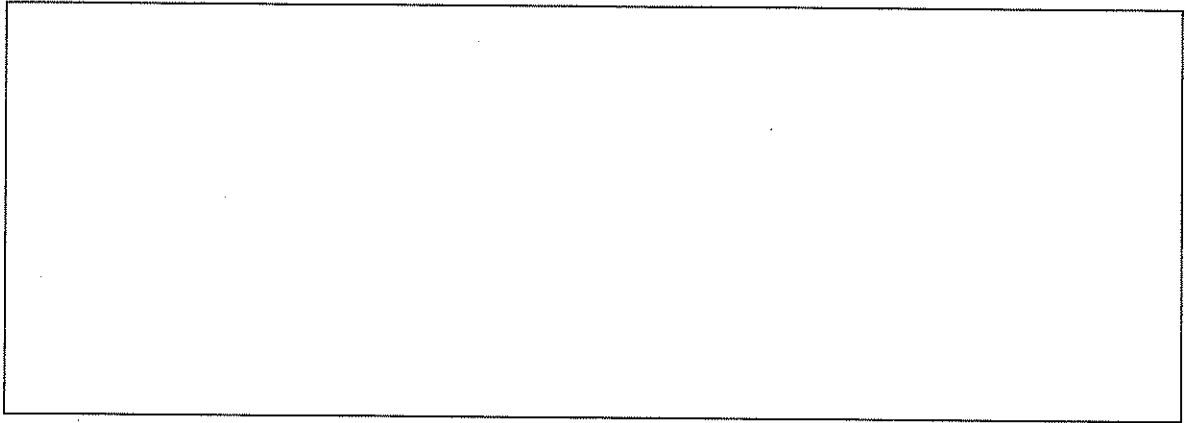
日本より高く、ディナーはチップを入れて2000円以上することは普通だったので、貧乏な私にはやりくりが大変でした。しかし、食費には1番お金をかけたかもしれません。

食費以外で大変だったことがもう一つあります。それは、ネイティブアメリカンの友人を作ることです。留学に来る前は、アメリカ人の友人に囲まれて過ごす私を想像していましたが、実際はこんなに大変だとは思っていませんでした。私の通っていた大学は、インターナショナルで様々な国の学生がいましたが、なかなかネイティブと触れ合う機会がなく、結果を言うとアメリカ人の友人は、ほとんど出来ませんでした。

その代わりに、香港、ベトナム、韓国など世界中に友人が出来ました。同じ年代の学生と触れ合い、お互いの文化を教えあったり、自分の国に対する考えを語りあったりできたのは、すごくいい思い出です。いろいろな国への興味も湧きましたし、将来なにかしらの形で彼らとの再会を約束して日本に帰ってきました。

留学が終わってわかったことは、アメリカ留学で、英語を勉強するのが全てではないということです。アメリカで10ヶ月間暮らし、アメリカ人の生活が経験できた。それだけでも、本当に行った価値があると思います。そこから日本とアメリカの違い、日本の良いところ、悪いところ、アメリカの良さ、悪さがそれぞれ見えました。また、日本にいる家族や友人が、どれだけ私にとって支えであったのか、思い知る出来事がいっぱいあり、当たり

前だと思っていたもの、人を大事にしなければいけないと気付かされました。もし、アメリカに行っていなければ、こういう風に思うことは一生なかったかもしれません。この留学を経験して、私が本当に大切にしなければいけないものは何なのか、わかった気がします。また、留学中は将来どんな職に就きたいのか、考えることも多くありましたが、今やっと答えが出ました。アメリカ留学中は、カフェによく行っていました。コーヒーの首都と言われているシアトルで、いろんなカフェを周り、そこで勉強したり、友人と語りあったり、忘れられない思い出が本当にいっぱいあります。そんな場所を提供する側に私もなりたいと思い、バリスタという職業を目指すことにしました。留学で得たものは、本当にたくさんあり、この10ヶ月は私にとって宝物です。また機会があれば、行きたいです。



※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

